



「協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるひと・まち・足立」の構築に向けて、更なる都政と区政の連携が必要不可欠です。そこで、近藤やよい足立区長とほっちのビジョンについて語りました。

都政と区政の協創

一人づくりは、まちづくり

ほっち

私は政治を志した時から「人づくりなくして、まちづくりなし」という信念で教育問題に取り組んでいます。第一に、いかなる家庭環境にあっても等しく教育が受けられるように。第二に徳育を基本とし、学力向上に努める。特に足立区の江北高校に中高一貫教育校の設置を都に提案し続けています。さらに、区内五大学との連携も重要です。



近藤

子どもが夢や希望を実現し、自己を肯定して生き抜いていくための基礎基本となるのは学力です。一人ひとりに寄り添うきめ細やかな対策を講じてきた結果、ようやく小学校の学力は都を上回るまで辿りつきました。中学校では英語を中心にまだこれからというところですので、事業を強化していきます。ほっちさんも是非現場の声に耳を傾け、都と区との連携、特に都立高校の中途退学防止の対策などにも今後とも力を尽くしてください。大学連携については、子どもが第三の大人である大学生を身近に感じることが、学ぶ意欲につながると考えていますので、一層力を入れていく必要があると確信しています。

新たな魅力の創出に向けた「エリアデザイン」

近藤

北千住を中心に、街の評価が高まってきています。現在、一定の広さのある土地を中心に、街の未来を区民の皆さんと考えていく「エリアデザイン」の計画が進みつつあります。江北、六町、花畑、竹の塚、西新井・梅島地域がそれにあたります。花畑地域には文教大学の新キャンパスの進出が決定しましたし、江北には大学病院誘致の計画があります。足立の未来が更に広がっていく可能性を感じます。

ほっち

ここ数年のまちづくりに対する近藤区長の努力には、敬意を表します。竹ノ塚駅の立体化や、江北エリアへの東京女子医大病院の誘致には、東京都の支援が重要ですから、私もしっかりとパイプ役を務め、支援をお約束します。先日テレビで、住んでみたい街第1位が「北千住」と放映されていましたが、まさに行政と区民が一体となって努力してきた成果だとうれしく思います。

一足立区の未来に向かって一

ほっち

私は足立区で生まれ、足立区で育ちました。だから足立が大好きです。ゆえに、取り組むべき課題がたくさんあります。しかもそれは、都や国と連携しなくては解決できないことばかりです。私は全力をあげて、足立区と東京都の連携をとり、都の支援をしっかりと足立区に届けていきたいと思っています。

近藤

ほっちさんの足立区に対する熱い思いは、区議会議員当時から本会議や委員会の質問を通じてひしひしと感じていました。先ほども申し上げたように、足立区は現在進行中の計画も含めて、まだまだこれからの伸びしろが大きい自治体です。つまり、可能性の芽を大きく育てられるのか、小さくまとまってしまうのか、今が正念場なのです。その意味で、区の声をもっと都に届ける確かな懸け橋となる都議会議員がますます重要なのです。獅子奮迅のご活躍を切望いたします。



足立区長

近藤 やよい

東京・足立の未来のために！

特別対談

東京都議会議員

ほっち 易隆



「政治に、もっと若い世代の意見を反映したい」

— ほっち易隆 —

一女性活躍社会を目指して一

ほっち

政府・自民党は女性が活躍できる社会をめざしています。そのためには、女性が自らの価値観で人生を選択でき、多様な生き方を実現できる社会基盤を整える必要があります。ですから待機児童解消のための保育園整備、地域包括ケアシステムの構築や介護を社会化することなどを通じて、女性の負担を軽減することが急務になっています。私も都議会議員として、保育園や特別養護老人ホームの整備などハード面の整備に加え、そこで働く人の人材確保や定着のための事業など、ソフト面の充実にも力を尽くしています。

近藤

おっしゃる通り、子育て支援、介護支援の充実も区としても大きな課題となっています。特に保育定員の増に関しては、平成30年4月の「待機児ゼロ」をめざして、平成28年度中に498人、29年度中に1,015人の増を見込んでいます。難しいのは待機児童が多い地域に限って土地の確保が困難なことです。その意味で都用地の活用は必須ですので、是非ご協力をお願いします。



「女性のさらなる活躍を目指して」

— 近藤やよい —

